令和5年度 第2回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

令和6年3月21日

松江市上下水道局

議　題

１．令和5年度経営計画の進行管理の進捗状況

（１）基本収益の確保　（進行管理P.5～7）
（２）浄水場の補強改修（進行管理P.13）
（３）管路更新耐震化　（進行管理P.14）
（４）建設改良事業　　（進行管理P.26）
（５）収支見通し　　（進行管理P.30～31）

２．上下水道事業の経営状況

（１）R6予算における水道料金の原価計算
（２）経営指標
（３）今後の経営について

令和5年度
経営計画の進行管理の進捗状況

（１）基本収益の確保　（進行管理P.5～7）

（２）浄水場の補強改修（進行管理P.13）

（３）管路更新耐震化　（進行管理P.14）

（４）建設改良事業　（進行管理P.26）

（５）収支見通し　（進行管理P.30～31）

（１）基本収益の確保（進行管理P.5～7）

令和5年度収益見込　　**（単位：百万円、税抜）**

	R5計画	上期実績	R5見込	対計画比
水道給水収益	4,205	2,108	4,222	17
下水道使用料収益	3,453	1,745	3,461	8

※R5計画、上期実績及び決算見込は、水道料金等の減免を行う前の数値

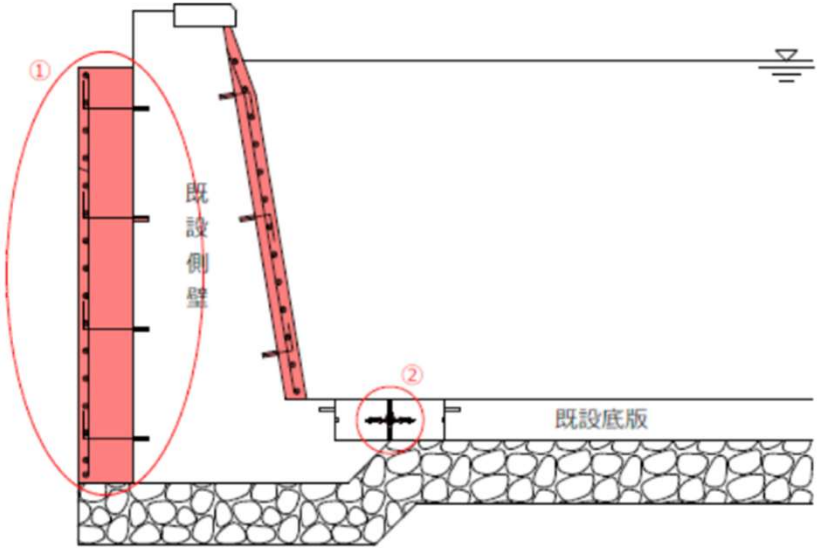
■令和5年度決算見込は、R5年度の計画とほぼ同額
・使用水量について、一般家庭用はコロナ禍で手洗いの励行等により微増していたが、給水人口減少等によりコロナ禍以前に戻る見込である一方、営業用などは、コロナ禍で大きく減少していたが、徐々に回復し、令和5年度末でコロナ禍以前に戻る見込

■コロナ禍における燃料費や物価高騰に対する市民生活支援のための水道料金等の減免
○水道料金　　４６６，３３３千円（宍道町を除く）
○下水道使用料　　１７，９２６千円（宍道町）

※減免に係る経費は、コロナ交付金等を財源とする一般会計からの繰入金

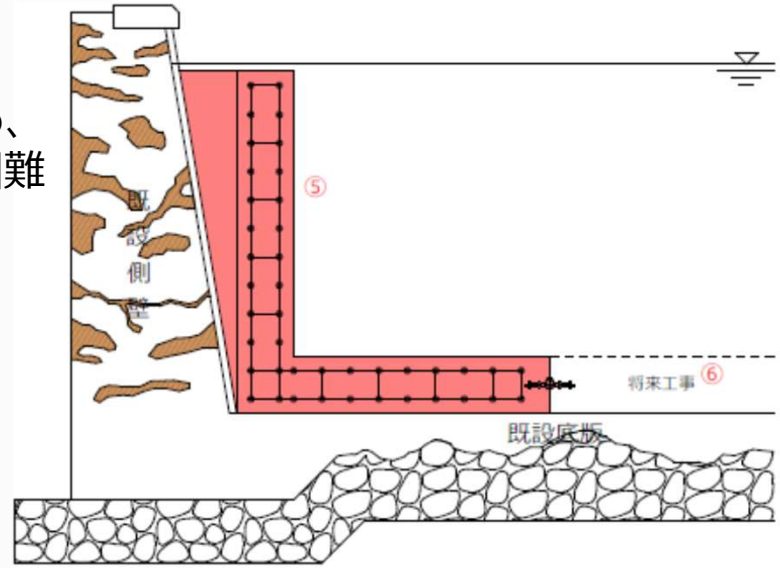
（２）浄水場の補強改修（進行管理P.13）

当初：増厚コンクリート工法



既設側面が脆いため、
増厚による補強は困難

変更：L型擁壁新設



	当初計画	変更計画
施工方法	既設躯体と増厚コンクリートをアンカー緊結し一体化を図り耐震性確保	ろ過池内側に新設擁壁（L型擁壁）を構築し耐震性確保 ➡施工性向上
コスト比較	―	○当初比較１０４％ （5，6号池：500万円増）直接工事費
問題点	―	池容量減（運用の支障なし）

（２）浄水場の補強改修（進行管理P.13）

ろ過池の側壁について、脆弱部を除去した後の状況

L型擁壁工法の施工状況

■総事業費：当初1,386,000千円　➡　1,822,700千円（436,700千円増）
・工法変更による工期延長
・物価高騰による資材・労務単価の増

■事業期間：当初R3～6年度　➡　R3～8年度（２年間延長）

（３）管路更新耐震化（進行管理P.14）

■基幹管路耐震化率

	R4	R5計画	R5見込	対計画比
耐震化延長（m）	3,820	6,275	5,508	△ 767
耐震化済延長（m）	201,077	207,352	206,585	△ 767
基幹管路総延長（m）	320,506	321,989	321,989	－
耐震化率（%）	62.7	64.4	64.2	△ 0.2

【対計画比減の理由】

・市道路改良工事に伴う送配水管移設工事の延期
・基幹管路耐震化工事（意東小学校行）のルート変更

■全体管路耐震化率

	R4	R5計画	R5見込	対計画比
耐震化延長（m）	16,172	17,868	16,645	△ 1,223
耐震化済延長（m）	632,503	650,371	649,148	△ 1,223
全体管路総延長（m）	1,567,535	1,569,678	1,563,104	△ 6,574
耐震化率（%）	40.4	41.4	41.5	0.1

【対計画比増の理由】

全管路総延長のうち約6.5㎞を除却したことにより耐震化延長は計画よりも減ったものの耐震化率は0.1%増となった

（４）建設改良事業（進行管理P.26）

【水道事業】

（単位：千円）

項目	R4	R5計画	R5見込	対計画比
管路	1,698,611	2,382,050	2,766,882	384,832
施設	40,321	1,029,760	980,028	▲ 49,732
設備	292,963	578,977	516,192	▲ 62,785
その他	212,778	230,610	210,292	▲ 20,318
計	2,244,673	4,221,397	4,473,394	251,997

【差額説明】

管　路：管路耐震化事業に係る交付金の追加要望に伴う増額
施　設：各種計画策定に伴う調査設計業務委託の延期等による減額
設　備：配水池・ポンプ場等に設置されている機器の通信方法や機器単価の見直しによる減額

【繰越について】 R5見込のうち約 10億円をR6年度に繰越す見込

・管路：R6年度事業の一部を交付金追加要望のためR5年度に追加要望を行ったもの（5.3億円）
・施設、設備：電線ケーブル等の機器類の全国的な需要過多により資材が納品されず事業を繰越すもの（4.6億円）

（４）建設改良事業（進行管理P.26）

【下水道事業】

（単位：千円）

項目	R4	R5計画	R5見込	対計画比
管渠	583,796	813,656	432,697	▲ 380,959
施設	160,058	350,940	308,281	▲ 42,659
設備	209,513	412,713	363,754	▲ 48,959
流域	333,378	333,060	324,918	▲ 8,142
雨水	131,830	775,712	557,725	▲ 217,987
その他	58,271	88,517	65,862	▲ 22,655
計	1,476,846	2,774,598	2,053,237	▲ 721,361

【差額説明】

管渠：国、県、市関連事業の計画変更に伴う移設が延期や中止になったことによる減額
施設：国の交付金内示の減額により、事業を次年度に延期したことによる減額
設備：入札減による減額

【繰越について】 R5見込のうち約 5.8億円をR6年度に繰越す見込

・管渠：国県関連事業の計画変更に伴うもの（1.3億円）
・施設、設備：電線ケーブル等の機器類の全国的な需要過多により事業を繰越すもの（4.5億円）

（５）収支見通し（進行管理P.30）

【水道事業】

（単位：百万円）

			R5計画	R5見込	対計画比	R6計画	R6予算	対計画比
収益的収支（税抜）		営業収益	3,918	3,939	21	4,414	4,531	117
		営業外収益	1,563	1,606	43	889	892	3
	収益計	①	5,481	5,545	64	5,303	5,423	120
		営業費用	4,991	5,173	182	4,933	5,180	247
		人件費	537	703	166	537	573	36
		運転管理費	1,227	1,321	94	1,167	1,401	234
		受水費	1,208	1,208	0	1,207	1,208	1
		減価償却費	2,019	1,941	△ 78	2,022	1,998	△ 24
		営業外費用	222	255	33	207	240	33
	費用計	②	5,213	5,428	215	5,140	5,420	280
	経常収支	①－②	268	117	△ 151	163	3	△ 160
資本的収支（税込）	資本的収入	⑤	1,866	2,013	147	2,268	2,002	△ 266
	資本的支出	⑥	5,539	5,793	254	4,238	3,725	△ 513
	うち建設改良費		4,221	4,473	252	2,947	2,433	△ 514
	差引不足額	⑥－⑤	3,673	3,780	107	1,970	1,723	△ 247
内部留保資金残高			1,994	1,537	△ 457	1,901	1,512	△ 389
企業債残高			14,504	14,595	91	14,376	14,465	89

【R5比較説明】

・収益はほぼ計画どおり

・費用は人件費や運転管理費（修繕費や委託料等）の増加により計画比2.1億円の増

【R6比較説明】

・収益の増は、受託工事収益の増（＋1.1億円）等によるもの

・費用は運転管理費（修繕費や委託料等）の増加により計画比2.8億円の増　➡R6年度予算は収支均衡予算に

・資本的支出のうち建設改良費は、管路耐震化事業の一部を交付金追加要望のため5年度に前倒ししたことにより5.1億円減

（５）収支見通し（進行管理P.31）

【下水道事業】

（単位：百万円）

			R5計画	R5見込	対計画比	R6計画	R6予算	対計画比
収益的収支（税抜）	収益	営業収益	3,600	3,628	28	3,640	3,672	32
		営業外収益	3,848	3,864	16	3,792	3,840	48
	収益計 ①		7,448	7,492	44	7,432	7,512	80
	費用	営業費用	6,628	6,595	△ 33	6,613	6,887	274
		人件費	178	188	10	178	240	62
		運転管理費	1,117	1,115	△ 2	1,072	1,242	170
		流域下水道費	1,138	1,131	△ 7	1,144	1,151	7
		減価償却費	4,195	4,161	△ 34	4,219	4,254	35
		営業外費用	601	613	12	546	566	20
	費用計 ②		7,229	7,208	△ 21	7,159	7,453	294
	経常収支 ① － ②		219	284	65	273	59	△ 214
資本的収支（税込）	資本的収入 ⑤		4,586	4,096	△ 490	3,912	4,124	212
	資本的支出 ⑥		7,168	6,722	△ 446	6,384	6,617	233
	うち建設改良費		2,777	2,330	△ 447	2,263	2,495	232
	差引不足額 ⑥－⑤		2,582	2,626	44	2,472	2,493	21
内部留保資金残高			669	624	△ 45	568	345	△ 223
企業債残高			34,674	34,365	△ 309	32,316	32,204	△ 112

【R5比較説明】

・収益及び費用ともにほぼ計画どおり

【R6比較説明】

・収益はほぼ計画どおり

・費用は運転管理費（修繕費や委託料等）の増加により計画比 2.9億円の増

上下水道事業の経営状況

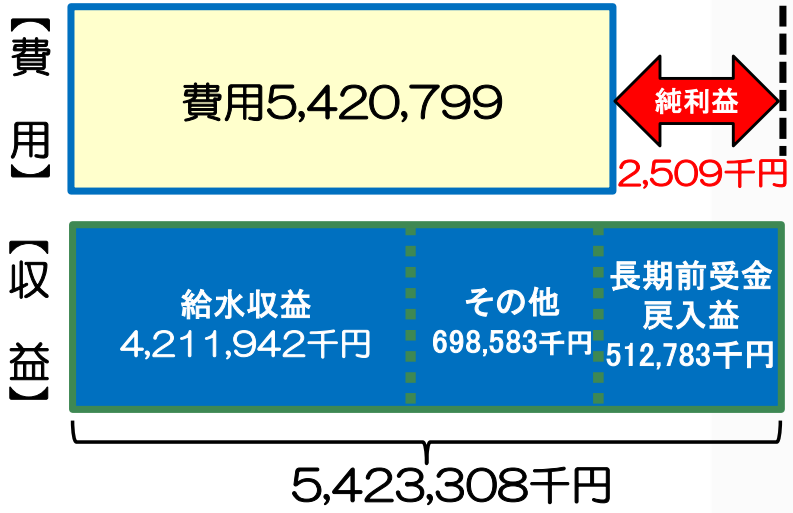
（１）R6予算における水道料金の原価計算

（２）経営指標

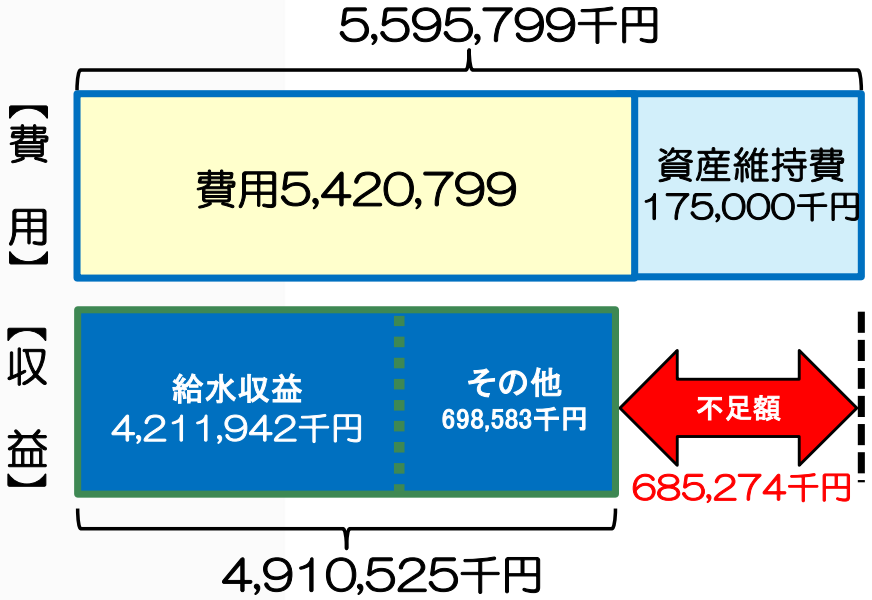
（３）今後の経営について

（１）R6予算における水道料金の原価計算

■R6年度予算における損益収支見込



■水道施設の更新・再構築に要する資金を確保する場合



○R6年度予算における損益収支は、2,509千円の純利益を計上

○水道施設の更新・再構築に要する資金を確保する場合685,274千円の不足

※【費用】将来の施設の改修・更新等に必要となる経費として資産維持費を175,000千円計上

※【収益】長期前受金戻入益512,783千円は、現金収入ではないため将来の投資のために資金を確保するには収益から控除する必要がある

（２）経営指標

経営指標（水道事業）	H28	R4	R5（見込）	R6予算
営業収支比率（%）	117.5	94.9	88.1	88.2
経常収支比率（%）	120.5	108.1	102.2	100.1

※R5(見込)は、収益に水道料金減免4.7億円、修繕引当金戻入益1.5億円を加算
※R6予算は、収益に修繕引当金戻入益4000万円を加算

◆営業収支比率、経常収支比率は、H28 年度簡易水道統合により悪化

◆営業収支比率＜100　➡水道料金で費用が賄えていない状況

◆高料金対策繰出金が簡易水道統合後6年目以降漸減し、R9年度以降は無くなる ➡

上水道高料金対策繰入金（旧簡水経過措置分）

統合後5年目以降漸減

年　　度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
繰入金（億円）	2.5	2.5	2.9	2.9	2.9	2.5	1.8	1.3	0.8	0.3	0
乗　　率	1	1	1	1	1	0.9	0.7	0.5	0.3	0.1	0

（３）今後の経営について

◆人口減少に伴う使用水量の減少により水道料金収入・下水道使用料収入ともに減少

◆費用面では物価高騰や労務単価の上昇に加え、施設等の老朽化に伴う更新費用の増大や島根県に支払う受水費及び汚水処理費の増加により経営環境が厳しさを増している

◆令和6年能登半島地震では水道管の破損による断水や、液状化によるマンホールの浮上が問題となった

横浜市復旧活動の様子
（志賀町内・横浜市職員撮影）

マンホール浮上の様子
（珠洲市内・静岡市職員撮影）

◆災害時でも安定した上下水道を維持するために、管路・施設の耐震化やマンホール浮上防止対策などを実施
（管路更新率目標：年間1%、ストックマネジメントによる施設の適正な管理）

◆R5年度決算を踏まえて財政推計及び向こう5年間の総括原価計算を行い、適切な料金のあり方を検討する